

# すずき歯科 スマイル通信 第31号

みなさん、こんにちは。朝晩はまだ冷えますが午後になるとポカポカ陽気ですね。春の訪れを感じます。さて、当院において一昨年からはじめた矯正治療は毎月2回、木曜日に診療日を設けてやってきました。しかし、予想を上回るニーズがあり、このままではこれ以上の患者様を受け入れることがままならないため、4月からは診療日を1日追加することになりました。新たに、かねてから要望が多かった土曜日に月2回診療日を設け、従来の木曜日は月1回にし、計月3回の診療日となりました。

## 矯正治療のおはなし

昨今、生活習慣の影響もあるのか、歯列不整（歯並びが悪い）または、将来咬み合わせや歯並びに問題が出てきそうな子どもさんが目立ちます。多くの歯科医院では矯正治療を行っていないため「このまま様子を見ましょう」という医師からの対応が多かったのではないのでしょうか。

はたしてこのままで良いのでしょうか？

小児期における歯列不整を放置することの弊害として、顎の成長が遅れたりズレて発育してしまう、歯をきちんと磨けないことや口をきちんと閉じられないことから虫歯や歯周病のリスクが高まる、食べ物をうまく噛めない、正しく発音できない…など様々な問題が考えられます。また、歯を食いしばる事が出来ないことから、ストレスが溜まりやすかったり、集中力が低下したり…と、一見歯並びには関係なさそうなことにまで影響することもあります。大切な子どもの歯並び、しっかり守ってあげたいですね。

永久歯列になってからの矯正では、歯を並べるスペースを確保するために抜歯をするケースが多いのに比べ、小児矯正では、早期に問題を見つけ、機能を正し、成長を利用した矯正を行うことで、抜歯を回避できる可能性が高いというメリットがあります。

ただし、矯正治療を開始する時期については個々の状態により変わりますので、気になる方はぜひ一度ご相談ください。

ところで「問題のある歯並び」とはどんな症状でしょうか？「歯並びが悪い」と聞くと、歯がガタガタであったり、隙間が開いていたり…と見た目にはきれいに歯が並んでいないことを想像される方が多いと思います。しかし実際には、キレイなアーチで並んでいるように見えても、上下の歯がうまく咬み合わない、前に出ている…など、歯並びが悪いとされる症状は様々です。右にいくつかご紹介します。

### 叢生（そうせい）

歯がガタガタに並んでいる状態です。顎の大きさと歯の大きさのバランスが取れていないことにより起こることが多いようです。



### 過蓋咬合（かがいこうごう）

下の前歯が上の前歯で深く隠れてしまう状態です。放置するとやがて下の前歯が上の前歯の裏側の歯肉に食い込み歯肉を傷めるだけでなく、上の前歯が押されて出っ歯になる可能性もあります。



### 開咬（かいこう）

奥歯を咬みあわせても前歯が咬み合わない状態です。症状により前歯の咬み合わせ数ミリから、中には1センチ咬み合わない状態の人もいます。このような状態では、前歯で食べ物が噛み切れない、「さしすせそ」などがうまく発音できないといった問題が起きます。原因としては、指しゃぶりや舌癖が考えられます。



### 反対咬合（はんたいこうごう）

「受け口」ともいわれ、下の歯または顎が前に出ていて咬み合わせが逆になっている状態です。反対咬合の中には歯だけに問題がある場合と顎の骨に問題がある場合があります。下顎は身長が伸びる時期に同じように伸びるため、子どもは年齢と共に症状が悪化することがありますのできちんと治療をすることが大切です。



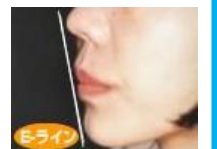
### 上顎前突（じょうがくぜんとつ）

上の前歯が前に飛び出ている状態です。



### 上下顎前突（じょうげがくぜんとつ）

イーラインより口元が外に出ている状態です。このような症状の方は唇が閉じづらい状態であることが多いようです。



### 正中離開（せいちゅうりかい）

いわゆる「すきっ歯」の状態です。常に息が抜けることから、サ行やタ行の発音が不明瞭となる人が多いようです。



### 交叉咬合（こうさこうごう）

奥歯が正常に咬み合わず、左右に大きく崩れる状態です。そのことからあごや顔が曲がったようになってしまう。原因として、幼児期の指しゃぶり、片側だけでかむ癖、頬杖をつく癖などが考えられます。

